



### 箱を3つ重ねたような凸状の外観

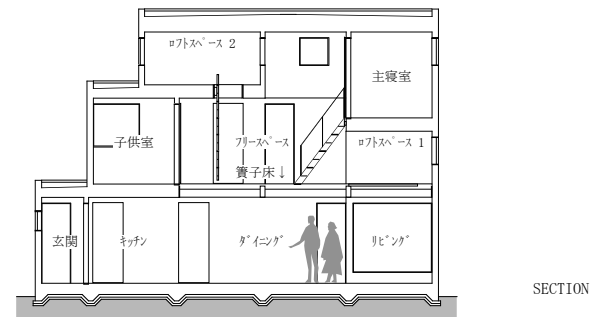
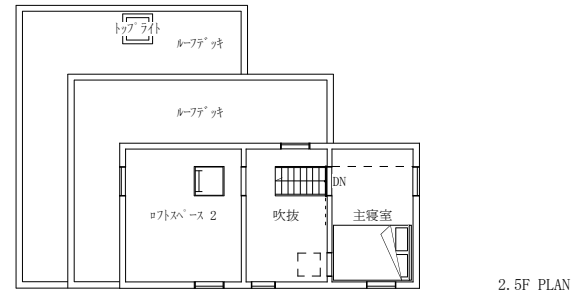
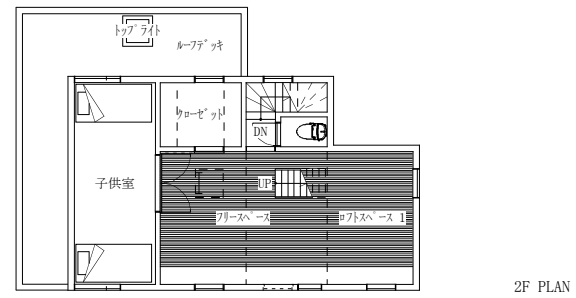
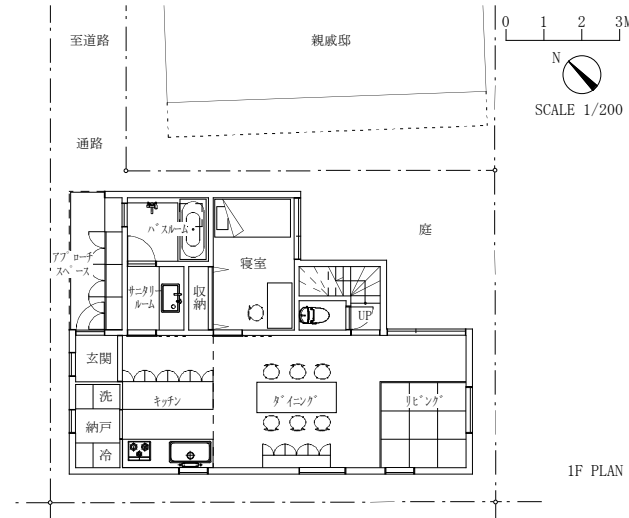
旗竿状で広くはない敷地、かつ、敷地北側が親戚邸である状況に対して、親戚邸側に庭を確保した状態で、建蔽率いっぱい建物を配置しながらも、階があがるにつれて壁面を南側に後退させた箱を3つ重ねたような凸状のボリュームにすることで、親戚邸の採光と視線の抜けを確保する計画とした。

### 内部の共用スペースも凸状の断面

周りを中層の建物で囲まれているなかであって、外部に視線の拡がりを求めることは困難であったため、内部も凸状のカタチを生かした同様の断面に計画することで、縦方向と横方向の各々に拡がりを持った2つの共用スペースをつくった。この2つのスペースは上下に積み重なり、その間の床前面に設けた簀子床の隙間を介して繋がっていて、大きな気積となるため、視覚だけでなく、聴覚による不思議な空間の拡がりも体感することができる。

### ヒートポンプ蓄熱床暖房住宅

ヒートポンプ式の熱源機により夜間に温水を作り、基礎のコンクリートにその温水を流して蓄熱し、しっかりと断熱した建物の内部を24時間輻射熱で全体的に暖める床暖房方式を採用した。気積の大きな内部空間にも最適である。また、効率の良い熱源方式と料金の安い深夜電力を採用しているため、光熱費は従来の一般的な床暖房方式より格安である。



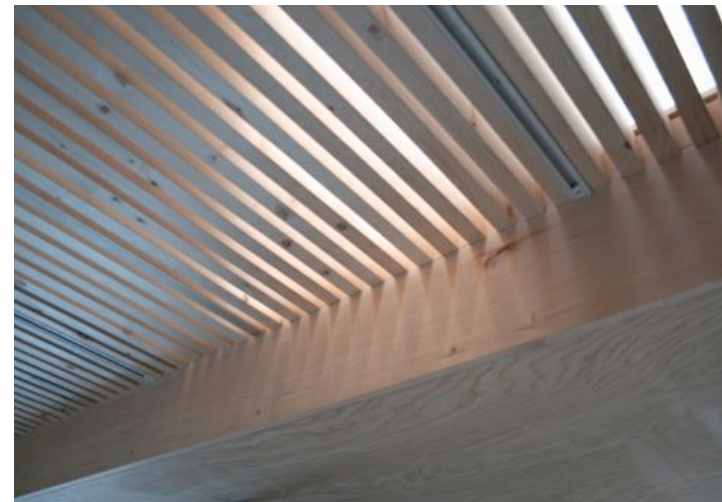
横長に広がる1階ダイニングキッチン。家族団らんの様子。天井はスノコ状になっている。



カウンターを2列に並べたオープンキッチン。家族みんなで料理をつくることできる。



1階キッチンからリビングダイニングを見る。リビングには収納を兼ねた小上がりがある。



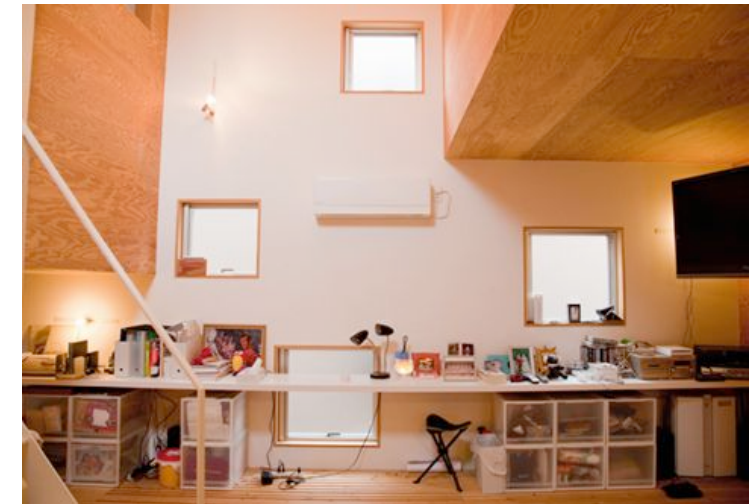
1階から見上げたスノコ状の天井。2階の明るさを程よく取り込んでいる。



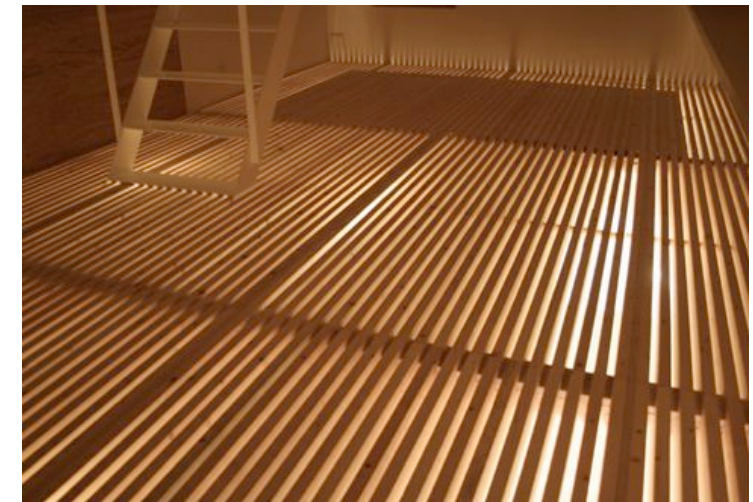
高さ方向にも拡がりがある2階フリースペース。もうひとつの家族団らんの場所。



2階フリースペースから子供室を垣間見る。ハシゴを昇るとロフトスペース2がある。



2階フリースペースを広角に見る。凸状の構成がわかる。



2階フリースペースのスノコ床夜景。1階と2階の共用スペースをゆるやかに繋いでいる。



少し広角に見た外観。段々になっている屋根の部分も、家族のちょっとした居場所になっている。



敷地北東側にある前面道路から見た外観。建物の左手前には親戚邸が見える。